



## 「上にあるものを求めよう！」

～「自分を明け渡すこと」によって得る「命の光」を放つ生き方～

「あなたがたは、もうこの地上のものではなく、天にあるすばらしいものに思いを向けなさい。というのは、あなたがたはすでに生まれながらの利己的な性質に死んで、新しい命が与えられており、それはキリストと共に神のうちに内蔵されているのである。」  
コロサイ人への手紙3章2・3節〔現代訳〕

聖書が教える最も中心的なことは、「こころの貧しい人たちはさいわいである(マタイ5:3)」また、「人は外の顔かたちを見、主は心を見る(1サムエル16:7)」のように、私たちの心の問題に関してです。どんなに立派なことを成し遂げた人物であったとしても、その心が間違っていれば的外れな生き方になってしまうのです。

世の中で仕事をしていくにはその結果を求められます。それは、仕事だけでなく、学業の世界でも同様です。ですから、その世の中の理屈から言えば、その結果さえ、うわべのことだけをしっかり作り上げていけば人生は成功するということと言えます。しかし、主はその結果やうわべではなく、その心、そこまでの過程、プロセスをしっかりと見ていただきます。

「行いのない信仰は死んだものである(ヤコブ2:26)」と使徒ヤコブが語っていることももちろん真実です。しかし、「信仰がなくては神に受け入れてもらえません(ヘブル11:6)」とも聖書は語っているように、私たちは信仰も行いも大切にしなければなりません。

しかし、その根本というものは、私たちの考え方にあります。自分自身が一体どこにいるのか？そんなことは悩まなくてもいいのかもしれません、もし悩んで苦しむ人がいたならば、その人は「こころの貧しい者」と言えますし、そういう人々は「わたしのもとに来なさい(マタイ11:28)」と招いておられるイエス様のもとに行くことになり、「さいわいである」という生き方が与えられるのです。そして、イエス様の元に行った者は、永遠にイエス様と共に歩む者となります。しかし、いつの間にか自分の生き方を選んでいたら、苦しみ悩むこととなります。この苦しみは、最初の苦しみとは異なり、息苦しいとか、不自由だと思われる苦しみとなります。しかし、私たちはすでに神のものとなり、十字架で主と共に死んだ者であることを認め、この世に属した存在ではなく、「神の内に内蔵され」ている存在であることを理解するなら、肩の力も抜け、輝いて生きることができるようになります。

いかがでしょう？主を求めれば求めるほど、私たちは苦しくなりますが、私たちが自分自身を主に明け渡し続けるなら、天国に生きる心地に変えられていきます。「御霊に満たされ(エペソ5:18)」るなら、「肉の欲求(生まれながらの自分の性質)を満たすこと(ガラテヤ5:16)」く、「命の光をもつ(ヨハネ8:12)」ように変えられていくのです。